

1 題材名 みんなが楽しめる新大塚公園をつくろう

2 題材について

(1) 【場面設定】:「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容

新大塚公園がよりよい公園になるよう考えよう。

(2) 本題材のもつ意義

新大塚公園は、1学期に地域探検で実際に行ったことがある公園で、社会の学習の入門期として初めて行った論争問題の事例地である。「みんなが楽しめる公園をつくろう」という題材のもと、子どもたちは初めに遊具いっぱい夢の公園を描いた。話し合いを進めていくうちに「花を入れた方がよいかどうか」という提起により、使っているのは自分たちだけではない視点が出てきた。「自分の理想を優先するという価値観(私的)」と「自分以外の立場を考慮するという価値観(公共)」という価値観の対立が生まれた。子どもたちは何がこの論争問題の根源的な価値観の対立なのか、すなわち「争点」を教員が関わりながら形成していったのである。

2015年6月から、新大塚公園は、文京区と地域住民との意見交換会を4回もち、新しい公園づくりに取りかかり始めた。今回の学習にあたっては、実際の意見交換会の中で生まれたいくつかの対立点の中で「自動販売機は公園に置いたほうがよいか」という問題を子どもたち自身に考えさせたい。そして、この問題では、自動販売機に対する様々な考え方がある中、どのような価値観がぶつかり合い、何が根源的な対立なのか、すなわち「争点を知る」を子どもたちが見出して行ける授業を展開していきたい。

(3) 本題材において育てたい「政治的リテラシー」

本題材では、「多様な利害や価値観の対立の中にあって、何が争点であるかを知ること」が「政治的リテラシー」の中核的な能力と考え、「争点を知る」ことがどのように形成されていくかを考えていきたい。

3 学習指導計画 (全9時間/7時間目)

1~2時:新大塚公園の現況を知ろう。

3~6時:新大塚公園再整備案、A案とB案のどちらがより良い公園?

7~9時:さらによりよい公園にするために、問題を解決しよう。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい 飲料水の自動販売機をおくかどうかを話し合う中で、何が争点かを考える。

(2) 予想される本時の展開

| 主な学習活動と子どもの姿 | 留意点 |
|--|---|
| 1 課題を確認する。 新大塚公園には、飲料水の自動販売機を置いたほうがよいだろうか 2 自動販売機を置いたほうがよいかどうかを話し合う ★設置案 ・公園で遊んでいると、のどが渇くから、自動販売機があると便利。 ・野球チームに入っている母親も、暑い夏など熱中症にならぬよう置いてほしいと言っているから、その声を大事にするべきだ。 ・災害用の自動販売機もあるので、いざという時にあるとよい。 ★設置しない案 ・自動販売機が置かれるとポイ捨てがあつてごみの問題が心配。 ・近所に住む人たちがうるさいかもしれない。 ・自動販売機は電気代もかかるし、節約すべきだ。 3 争点を見出し、焦点化して話し合う。 4 今日の話し合いから、考えたこと振り返る。 | ・地元住民の意見も紹介し、考えさせる。 ・多様な意見が出てくる中で、「争点」になり得るところは、教員が関わりながら形成していきたい。 |

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

争点を知る過程の中での教員のかかわりはどうだったか